

週 報

「信じます。

不信仰なわたしを、

お助けください」。

(マルコによる福音書第9章24節)



人と神、人と人をつなぐ難しい働きをしています
日本基督教団 西宮公会堂

〒662-0834

兵庫県西宮市南昭和町 10-22

TEL 0798-67-4691

FAX 0798-63-4044

郵便振替 01170-3-4901

ホームページアドレス

<http://www.koudou.jp/>

電子メールアドレス

koudou@gamma.ocn.ne.jp

小さな手大きな手

(前週よりのつづき)

- ・7月31日 「第一原発2号機、デブリ採取用アーム不具合、格納容器内挿入来月以降に」
「第一原発2号機、未使用核燃料取り出し完了、来月にも『使用済み』に着手」
「第一原発処理水、海洋放出を開始、今年度4回目」
- ・8月1日 「原発建て替え目標、政府が正式決定、事故後初、2040年代2～5基」
「東日本大震災復興に42兆円、15年間累計、インフラ最多、2番目は『復興再生』」

東電福島事故から15年4か月で、地元の新聞で「課題」になっているのは、中間貯蔵施設の「見学ツアー」。しかも「その役割は何か」を確認・知るためのツアーだったりする。ただ、別に「課題」になっている、全国知事会で「除染土壌の県外最終処分や再生利用」を、方向づける為には、見学ツアー「ストーリーの創出」は、必要になるのだと思う。

そもそも、事故で降り注いだ放射性物質を、除染するという「ストーリー」で始まり、それが中間貯蔵施設の、中間という「ストーリー」になっても、もともとが、最終の「ストーリー」が描けないストーリーでしたから、30年の、ほぼ10年が経過して、内堀福島県知事は、「除染土壌県外最終処分工程明示」を国に求めています。ただ、この言い方は、変ってきていて、減容化されたりした汚染土壌は、「再生土壌」と呼ばれたりしていて、あっちこっちで、日常的な生活世界に、それをもぐり込ませようとしているのが現状です。「県外最終処分」は、「再生利用」に方向転換されつつあります。

東電福島事故の現実・現状は、こうした言及では何一つ変わらないのはもちろん、事故現場では、デブリ取り出しという「ストーリー」が相変わらず遅々として進んでいません。事故現場は、そこの「ツアー」が実

施されたりしていますが、その敷地内で増え続ける、処理された結果の高濃度の放射性物質の容器などが増え続け、「東電男性社員が原発構内で飲水」が問題となる場所であり続けています。

- ・8月2日 「福島第一原発1～3号機、原子炉の水素濃度抑制装置一時停止」
- ・8月3日 「高レベル放射性廃棄物最終処分場選定、遠い離島、コスト課題」
- ・8月6日 「増設雑固体廃棄物焼却設備の運転再開、福島第一原発」
- ・8月7日 「福島第一原発2026年版・廃炉プラン公表、デブリ搬出へ調査優先」
- ・8月13日 「青森・むつの間貯蔵施設、核燃料搬入8社と打診、運営の東電、原電、関電前向き検討か」
- ・8月18日 「第一原発から回収後のデブリ処理、社会全体で意思決定を、更田NDF廃炉総括監、講演で指摘」「2号機のワイヤ修理、使用済み核燃料一体」「サリーの吸着剤、乾燥試験きょう開始、腐食リスク低減へ」「処理水海洋放出22回目が完了」「次世代革新炉の研究棟新設へ、原子力機構、人材育成拠点も」
- ・8月19日 「川崎市、除染廃棄物、本県で処分、『配慮必要だった』法的問題なし」
- ・8月20日 「特定帰還居住区域の避難解除へ、『要件整いつつある』双葉町、初の説明会で示す」
- ・8月23日 「全漁連、第一原発処理水、放出3年で談話『反対変らず』」
- ・8月27日 「環境省、大熊に除染新拠点、帰還促進へ現地体制強化」

(次週につづく)